

東京都立淵江高等学校

令和2年度

第3回学校運営連絡協議会

及び第2回学校サポートチーム会議

報告資料



目次

学校経営報告	1
教務部 報告事項	2
生徒・保健部 報告事項	3
進路指導部 報告事項	4
総務部 報告事項	5
第1学年 報告事項	6
第2学年 報告事項	7
第3学年 報告事項	8
学校評価アンケート 集計結果及び分析と提言	9
学校サポートチーム会議 報告事項	9

学校経営報告		
学校経営計画 今年度の目標と方策 重点目標と方策		
学習指導	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆アクティブラーニングの活用及びEPA-サテライトの工夫による主体的学習姿勢の育成《授業満足度90%》 ◆授業規律の確立 ◆土曜日や放課後の補習・講習の実施による、基礎学力の定着と学習意欲の醸成 <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員研修会によりALなどの授業の工夫と検証を行い、生徒が将来にわたり学び続ける姿勢を育成する。 (2) 月1回以上の教科会、また定期的な教科主任会により組織的な教科活動を推進する。 (3) 土曜講習の充実及び自習室の有効活用により、学習支援や進学対応を強化する。 	B
生活指導 健康づくり	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学年と生徒保健部との連携、カウンセリング等の活用による遅刻の減少《遅刻者1日35名以内》 ◆身だしなみ違反者、携帯等のルール違反者を出さない指導の徹底 ◆問題行動の未然防止及び再発防止 ◆健康で安全な生活を送るための判断力及び意識の向上 <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 登下校時、集会、HR、授業時等に全教員で身だしなみ指導を徹底する。 (2) 学年集会等により生活指導を周知徹底し、生徒の把握及び早期対応を図る。 (3) いじめアンケート、教育相談委員会等を活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 (4) 計画的な体育の授業、積極的な部活動参加を通して体力向上を図る。 	B
進路指導	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生徒の進路希望の実現《進路指導満足度90%》 <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年で組織的、計画的な進路ガイダンスを実施し、生徒の進路意識を向上させる。 (2) ハローワーク、同窓会と連携し、講話などを通してキャリア教育を充実させる。 (3) 自立支援事業を活用し、退学防止に努める。《進級率 99%》 	A
特別活動	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆行事の活性化とボランティア活動の推進 <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 部活動参加を促し、様々な体験を通じて協調性、主体性などを養う。《部活加入率60%以上》 (2) 「ボランティア活動推進校」として活動を内外に発信し、積極的な活動を推進する。 《ボランティア個人参加者のべ130名》 (3) 全ての教育活動を通じたオリパラ教育の充実と及び国際交流活動の推進 	C
募集広報活動	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆応募倍率の向上とHPの充実《学校HP更新数240回以上》《出前授業3回以上》 <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 夏期休業中の学校見学会は日直対応で毎日開催する。来校者希望者多数の場合は、学校全体として開催する。 (2) 夏期休業中の中学校訪問は、1年生生徒全員及び全教員で取り組む。 (3) 生徒の活躍や、学校行事等をタイムリーにHPや掲示板等で発信する。 	B
学校経営組織体制	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆分掌間、教員と経営企画室、学年と分掌等の意思疎通と情報共有 ◆効率的な業務の推進 <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 電子起案により意思疎通を迅速かつ正確に行う。 (2) 学校経営に即した適切な予算編成と予算執行を行う。《服務事故ゼロ》 (3) 職員の個人情報管理とコンプライアンスを徹底する。《体罰ゼロ》 (4) 全教職員の勤務時間を11時間以内にするよう意識改革と業務縮減の工夫を行う。 (5) 各種会議時間1時間以内を目指す、ライフワークバランスの実践！ 	B

教務部 報告事項

1 コロナ禍における学習保障を振り返って

(1) 感染症対策と学習支援について

臨時休業から始まった令和2年度は、6月より分散登校を実施し、段階的に授業を再開した。教職員は感染症対策を講じながら、年間授業計画を練り直し、休業中の自宅学習の内容と連動しながら授業を進行した。第2・第3学年について、平成31年度末より臨時休業となったため、生徒が学習の積み上げに不安を感じたり、学校への帰属意識が低くなったりしている様子が見受けられたが、学年担任団を中心として個別に面談等を実施し、手厚く指導を行った。

(2) 定期考査前の学習支援について

各定期考査前の土曜日に、土曜講習を実施し、考査前の学習について支援した。考査前に学習の方策を立てることが難しい生徒に大変好評で、土曜日にもかかわらず多くの生徒が出席した。また、土曜講習の日について、自習室として図書館を開放し、生徒に学習環境の場を提供した。土曜講習参加者は以下のとおりである。

土曜講習の別	参加した生徒の人数(延べ人数)		
	第1学年	第2学年	第3学年
1学期末考査前土曜講習	380名	433名	247名
2学期中間考査前土曜講習	337名	454名	150名
2学期期末考査前土曜講習	329名	435名	100名
参加延べ人数合計	1,046名	1,322名	497名

(3) 自宅学習等の充実に向けて

生徒の学びの保障するための対策として、Microsoft Teamsの導入および仮アカウントの配付、また11月には正式アカウントの配付を行った(生徒・教員を対象)。ICT支援員による個別研修会を計画し、教員の熟達度に応じ、オンライン授業実施に向けた研修の場を設けた。11月には正式なアカウントを教員及び生徒に配付し、学年単位や授業毎でチャンネルを作成し、課題を発出したり、生徒がそれを受けて課題に取り組んだりすることができた。

2 基礎から発展に向けた学習支援

令和元年度実用英語技能検定試験において、第1回から第3回まで準会場として本校にて実施した。平成30年度と比較して多数の受験があり、令和元年度3月に英語検定協会から奨励賞を授与していただいた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、校内における実施は難しい状況ではあるが、生徒の進路実現等にも有利になる資格であるため、本会場(外部会場)における受験を積極的に奨励していく。

<受験者数の推移>

年度	受験者数
令和2年度	3名
令和元年度	20名
平成30年度	13名

生徒・保健部 報告事項

1 学校行事

体育祭 藍青祭 合唱祭 コロナ感染予防のため中止

1月25日 セーフティー教室 (SNS) 1学年 インターネット配信 各教室が視聴

1月18日 クラスTシャツコンテスト リモート配信 各教室が視聴

3月16日 スケアードストレート (予定)

3月16日 自転車シミュレータ 1学年 (予定)

3月23日 人権教室 映画鑑賞「グリーンブック」 各教室での鑑賞 (予定)

3月 セーフティー教室 (薬物乱用) (予定)

2 生徒会活動

地域の清掃活動 10月

朝の挨拶運動 11月

ペットボトルキャップ回収 (予定)

3 部活動

柔道部 東京都学年別大会 総体代替大会 5位 (2名)

女子バスケットボール部 高体連新人大会 3回戦進出

男子硬式テニス部 都立対抗テニス選手権大会 団体ベスト32

東京都高等学校テニス選手権大会 ダブルス 3回戦進出

4 生活指導

特別指導 5件10名 (昨年8件15名) 生徒部指導 2件

自転車シールの徹底 考査時にシールのない自転車を摘発・指導

自転車マナーの徹底 (イヤホン・左側通行)

雨天時、傘さし運転・装着禁止指導 指導自転車通学時の雨がっぱ着用徹底

5 頭髪・服装指導

定期検査以外でも担任が生徒保健部に頭髪違反の生徒を連れてくることも多くなった。

6 保健関係

- ・ 新型コロナ対策で非常に厳しい保健室経営を求められる1年であった。
- ・ 健康相談活動を通して適宜スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーに生徒をつなぐことができた。
- ・ 教育相談委員会で生徒の事例検討会を実施。全教職員で共通認識を持つことができた。

7 美化関係

教室は清掃状況がよくなった。

ほぼ毎月、放課後に30分程度、大掃除の日を設定。

進路指導部 報告事項

1 進路に関する現況報告

(1) 今年度の進路状況 *令和3年2月5日現在

	進 学				進学以外		
	大 学	短 大	専 門	職 能	民間就職	公務員	その他
20年度	46 +α	2	56 +α	1	59 +α	0	47
19年度	61	2	92	6	37	2	23
18年度	55	7	72	2	63	0	23

18年度 就職者で同時に専門進学者1名いるので、専門計73名となる。

(2) 今年度の4年制大学の合格状況 *令和3年2月5日現在

	一般試験		A O	推 薦 入 試			合 格	進 学
	センター	一般		指定校	公募	自己		
20年度			14	30	1	1	46	46
19年度	0	4	12	43	2	0	61	55
18年度	1	8	18	24	3	1	55	55

注) 海外の大学への進学は含まない。 網掛けは、今後に変更有

(3) その他

- ① 公務員の希望者は0名
- ② 大学の一般受験中の生徒は19名

2 今年度の成果

第三学年

- ① コロナ禍の厳しい環境にも関わらず、例年以上の進路指導を学年と連携して行い、通常と変わらない進路実現を達成することができた。
- ② 推薦希望の生徒に対して、面接ビデオ指導をはじめ、個別面接指導を学年と連携して複数回行い、指定校出願者全員を合格へと導くことができた。
- ③ 専門学校において、学校選びの指導を充実させることにより、希望の学校への進学が実現するよう導いた。
- ④ 就職において、初回応募の内定率 78% (応募50名 内定39名) という極めて高い成果をあげることができた。
- ⑤ コロナ禍において、奨学金等の資金準備のガイダンス (保護者向け) の実施ができなかったため、保護者に説明プリントを作成して配布した。
- ⑥ 教員対象の進路研修会を本校の進路指導の方針を共有する目的で3回に渡って実施しスムーズな進路指導につなげることができた。その結果、昨年度は多かった出願後の変更をゼロにすることができた。
(1回は外部講師を招いて、2回は校内のみで研修を行った。)
- ⑦ コロナ禍において、非常事態宣言下の4月5月に準備を行い、6月12日という早期に進路別学習会を実施することができた。

第二学年

- ① 進路希望分野の決定を目的に、進路ガイダンスを年計6回実施した。
- ② 第二学年の3学期実力テストにおいて、昨年度同様、志望進路別に行い、効率的な進路指導を行うことが出来るようになった。

第一学年

- ① 進路演劇と職業人インタビューの行事を行うことで仕事、進路への意識付けを高める指導を行った。
- ② 適性検査に加え、学力テストを3回 (基礎2回、実力1回) 実施し、進路への現在の到達度を示すこと今後の進路活動に活かすことが期待される。

3 今後の課題

- ① 高校3年間にわたる進路ガイダンス（進路指導）のあり方見直しを行い、学年と進路の連携がよりスムーズに行うよう計画を立てていく。
- ② 第二学年で行った志望選びの指導を検証し、次年度以降に活かして行きたい。
- ③ 今年度実施できなかった、保護者対象の資金準備の説明会と推薦説明会を行い、保護者により有用な情報を伝えることができるよう努める。
公務員受験に関して希望者も少ない状況なので、より合った指導となるよう計画を改善して行きたい。

総務部 報告事項

1 募集対策

- (1) 今年度の、募集対策行事等への参加者数は以下の通りで昨年度の半分に留まった。新型コロナウイルスの影響で行事の定員を多く取れなかったことが大きな要因である。参加者の減少を補うためにYouTubeによる動画配信を始めたところ、閲覧者数が2295名に達した。動画が本校志望につながっているか、新入生にアンケートを実施して検証する予定。

	1学期学校見学	3名
	上級学校訪問	6名
	夏季休業中の学校見学会	221名
8/1	さんだる相談会 IN 錦糸町	8名
11/1	第1回学校説明会	60名
11/21	第2回学校説明会	75名
12/19	第3回学校説明会	81名
	2学期学校見学	38名
1/9	第4回学校説明会	16名
2/1	個別相談会	2名
	合計	510名
	----- 昨年度	1129名

- (2) 今年度の募集倍率は推薦2.38倍、前期1.10倍。女子の倍率が特に低く、前期女子は0.9倍を下回っている。

2 ボランティア活動

- (1) 今年度は足立区ボランティアセンターと連携した啓発活動が実施できなかった。次年度はリモートで実施できるか検討する。
- (2) 本校ボランティアサポートチームが、「第3回都立高校生等ボランティア・サミット」に参加し、コロナ下におけるボランティア活動の実践を呼びかけた。このほか、ボランティアサポートチームとして、募金活動、足立あかしあ園とのメッセージボード交換、全都立高校等によるモザイクアート作成に取り組んだ。
- (3) 足立区のごみゼロ地域清掃に、生徒会、ボランティアサポートチーム及び有志の計25人で参加し、雨天に負けず精力的に活動を実施した。同様の活動を、1学年が3学期に計画している。

3 国際交流

- (1) 駐日トルコ共和国大使館と、本校1年生によるリモート交流会に成功した。
- (2) 東京学芸大学留学生6名と本校生徒4名によるリモート交流会で、互いの文化を紹介する交流活動を実施した。
- (3) 現在、東京都の機関「国際交流コンシェルジュ」を通してベルモント市に代わる新しい交流先を模索している。

4 PTA・同窓会・淵高会

今年度は卒業式が生徒と教員のみによる実施となり、加えてPTA会報「北極星」が作業困難のため作成中止となった。代替企画として卒業式DVDと卒業記念パンフレットを計画し、PTA理事会の承認を得た。

第1学年 報告事項

① 在籍・クラス編成

		A組	B組	C組	D組	E組	F組	計
担任		熊坂	岡野	稲井	水原	高橋	栗山	
副担任		柴田	船越	小澤	島田	大村	沖山	
在籍	男子	19	18	20	19	19	19	114
	女子	19	20	20	21	19	20	119
	計	38	38	40	40	38	39	233

転学 1名（女子生徒） 退学 4名（男子生徒3名、女子生徒1名）

② 1年間の取り組み及び生徒状況

今年度のスタートはコロナウイルス感染拡大により、入学式の中止から始まった。4月、5月の長い休校期間を経て、ようやく6月に生徒の登校が可能になった。1学期は生徒、担任団共にあつという間に終わってしまった。1年を振り返るとき、この期間に生活指導に関わる指導が十分にできなかったことが、その後の生徒の態度に影響してしまったと反省している。

2学期は例年になく「長い」2学期であったが、文化祭を始め、様々な行事が中止となり、その分授業ばかりの毎日となり、本校のような学校の生徒にはかなり厳しい状況だったと思う。ただ、その中でも生徒たちは遅刻や欠席が増えた生徒もいたが、大半の生徒は授業態度も良好で、学業を修めることができた。

3学期は例年通り「短い」3学期の予定に緊急事態宣言が発令となり、分散登校になる中、生徒は2学期に引き続き頑張ってくれたと思う。確かにコロナウイルスによる出席停止等があり、例年なら欠時が切れ、2学期には転学、退学していたであろう生徒がもっと多かったと思うが、それ以上に生徒が我慢してここまで済んだという印象が強い。

③ 来年度の予定、今年度の取り組みを踏まえての課題等

来年度は生徒の進路実現を考えると、最も重要な1年になる。初めてのクラス替え、高校生活最大の行事である、修学旅行、「中だるみ」と言われる1年をどう過ごさせるのか。まずは一人ひとりの担任が自分の担当するクラスについて日頃より注意深く観察し、コミュニケーションをとり、それらを学年内で共有し、助け合えるような組織をつくる。それを基礎に保護者とも連携し、生徒への指導を進めていく。来年度特に力を入れたいのが、各種行事への取り組みである。普段の授業のみでは得られない、他者との協力を通しての経験をさせ、将来の進路につなげていきたい。また、今年度はできなかった、「人間と社会」に関する内容や、ボランティア活動に関する内容について学ばせていきたい。

今年度はここまで5名が転学または退学したが、来年度も引き続き本校での学習を途中で止めてしまうような生徒が一人でも出ないように、気持ちを引き締めて担任団一同、しっかりと指導していきます。

第2学年 報告事項

① 在籍・クラス編成

	A組	B組	C組	D組	E組	F組	計
担任	清水	小島	岩本	中山	老田	百崎	
副担任	岡本	飛鳥馬	荒川	湯本	浅野	白石	
在籍	男子	18	19	17	18	18	108
	女子	18	20	21	21	20	120
	計	36	39	38	39	38	228

転入 1名（女子）

転学 3名（男子1、女子3） 退学 2名（男子1、女子1）

② 修学旅行

2学年では、当初、11月に沖縄の修学旅行を予定していましたが、昨年6月、新型コロナウイルスのために中止か延期を決めなければならなくなりましたが、中止でなく延期としました。生徒たちには、どうしても沖縄という素晴らしい場所を、実際に体験してもらいたい。高校の仲間とみんな一緒に沖縄での体験を共有してほしい。また、平和学習を通して沖縄をもっと深く知ってほしい。そんな思いから、コロナによる影響が少なくなりそうな4月に延期することにしたのです。2月中旬現在、感染者数は減少に向かっていますが、まだ先は見通せません。第2学年では、引き続き実施に向けて努力しています。

③ 学校生活

再度の緊急事態宣言のため、部活動ができず、学校行事も行えない中で、授業ばかりの日々は生徒にとっても教員にとってもストレスがたまる状況でした。2学期から3学期にかけて、人間関係や生活のリズムの乱れから、欠時が増えてしまう生徒がかなりの数になりました。転学や退学する生徒がかなり出てしまっていることは残念なことで、さらに今後も進級が厳しく転退学せざるを得ない生徒ができてきそうです。もどかしい状況は続きますが、より多くの生徒が進級して、修学旅行に参加できるように頑張っていきます。

④ 学年行事

1学期末と同様に、2学期末にも、球技大会、各クラスで映画鑑賞を行いました。また、クラス企画では、サンタクロースに扮した生徒が、ゲームを盛り上げてくれたり、各クラスでレクリエーションを行ったり、学校でしか味わえない楽しい時間を過ごせたと思います。

⑤ 進路行事

12月から、進学（大学・専門学校）、就職、公務員のそれぞれの分野に分かれて、模擬授業を受けたり、それぞれの分野で必要なことを学んだりしています。今年はコロナのため、学校外の人とほぼ接していないため、進路を身近なものとしてとらえられていないという現状があります。そのような中で、上級学校の先生たちが淵江高校に来てくれて模擬授業を行ってくれました。生徒たちには大いに刺激になったようです。ただ、具体的な進路ということになると、まだ決まっていない生徒が多くを占めていて、未定者を減らしていかなくてはなりません。

⑥ 総合的な探求の時間

2学期は、修学旅行先である「沖縄」の調べ学習をしました。班ごとにテーマを決めて、ポスター発表を行い、また、平和学習も併せて行いました。先日は、リモートで沖縄とつなぎ、平和講演会を聞きました。3学期の「総合的な探求の時間」では、個人でテーマを設定し、課題に取り組む活動を行っています。指導に当たっては、淵江高校の全教員で対応し、教員一人あたり6名ほどの生徒を担当、小グループでの指導および個別指導を行っています。この取り組みは淵江高校として初めてで、教員・生徒ともに手探りな状態ですが、自分で見つけたテーマを、自ら深めていくことは、普段の勉強とは違う発見があります。生徒には3年生になった時に報告書を作って発表してもらおうのですが、よい報告書・よい発表になるように教員と生徒ともに頑張っていきます。

第3学年 報告事項

① 在籍・クラス編成

		A組	B組	C組	D組	E組	F組	計
担任		八尾	大久保	東	福地	赤迫	柴田慶	
副担任		市川	新野	太	磯川	渡邊	安部	
在籍	男子	17	16	17	18	17	17	102
	女子	18	18	18	18	18	18	108
	計	35	34	35	36	35	35	210

第3学年（48期生）は、第1学当初237名でスタートし、第2学年当初221名、第3学年当初211名と推移し、現在210名が在籍している。210名中1名が進路変更予定で、209名が卒業見込みである。

② 3学期の行事

校外学習（テーブルマナー教室）中止

2月2日～4日 学年末考査

2月17日 卒業判定会議

3月 5日 卒業式予行

3月 6日 卒業式

③ 今年度のまとめ

今年度当初は新型コロナウイルスの影響で、学校生活が6月からのスタートになった。高大接続改革による大学入試方法の大幅な変更や、コロナ禍による就職求人の減少などがある中、従来以上の手厚い進路指導を心掛けた。今年度の目標としては、1) 全員卒業、2) 進路目標実現を掲げ、学年運営を行った。

1) について

1名が欠時超過により原級留置になるため、進路変更を考えている。その他の生徒は、担任の尽力、教科担当者の協力により卒業の見込みである。

2) について

進路指導部との連携し定期的に進路ガイダンスを開催した。また、個人面談、三者面談を行いながら進路活動を行った。その結果、多くの生徒が希望の進路に進むことができる。また、心配された大学入試の変更点、就職の難しさを乗り越え、素晴らしい成果を上げた生徒もいる。

最後に、今年度は新型コロナウイルスの感染防止対策で進路活動だけでなくすべての学校行事が影響を受けた。中でも校外学習、体育祭、文化祭が中止となり、最後の1年間は充実した学校生活とは程遠いものになってしまった。そのような状況であったが、感染症対策を行ったうえでの学年行事や学年体育祭では生徒の積極的な活躍が光り、計画を立てたり、リーダーシップを執ることができたりと、3年間の成長を感じることができた。

今年度の卒業式も来賓の方々にご臨席を賜ることができませんが、この場を借りて御礼申し上げます。これまで48期生のご支援、ご指導、誠にありがとうございました。

学校評価アンケート 集計結果及び分析と提言
(集計結果は別紙「令和2年度 学校評価アンケート年次変化表」を参照)

- ①質問項目4 (自ら考え積極的に取り組んでいる) の評価が、教員だけ突出して低い。
(分析) 教員が求める「自ら考える」「積極的である」の基準が伝わっていない。
(提言) 新課程で観点別評価を導入する際に、「自発性・積極性」の基準を設けて明示する。
- ②質問項目10 (ボランティア・国際交流) の評価が、生徒・保護者・教員の三者で特に低い。
(分析) 以前から続けてきた各種活動が年々縮小しており、コロナが追い打ちをかけている。
(提言) リモート等、直接交流以外の交流活動を増やすことを検討する。
- ③質問項目18 (教員のライフワークバランス) の評価がどの立場から見ても低い。
(分析) コロナ対応による新しい負担が発生しており、例年と比べて業務量が減っていない。
(対応) ICT環境をさらに整備して、学習指導をより一層効率化する。
- ④質問項目19 (コロナ対策) の評価がどの立場から見ても低い。
(分析) 生徒の密度が平常時と大きく変わらない場面が多い。(授業、集会等)
(対応) 過剰に恐れず、必要な注意だけは怠らないような指導を充実させる。

学校サポートチーム会議 報告事項

今年度が発生して、いじめと認定された案件 0件

- ①9月下旬、SNS上のトラブルを伴う、いじめと取られかねない案件が1件ありました。その件につきましては、警視庁少年センター、竹ノ塚警察署、本校YSW、本校SCと連携して対応して参りました。
- ②11月下旬、SNS上の誹謗中傷を伴う、いじめに発展しかねない案件が1件ありました。その件につきましては、担任団の対応によりそれ以上発展することなく解決しました。